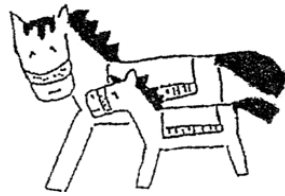


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

27年 5月 NO. 246



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		5月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
5月 9日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って 一緒にあそびましょう。
5月 16日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験に おいで下さい。
5月 22日	金	おはなしの会 10:00～11:30	「夢をあつめよう」をテーマにパネルシアター や手あそび、紙芝居があります。
5月 23日	土	手品教室 14:00～16:00	子どもから高齢の方も喜ぶ手品を覚えて マジシャン気分！どなたでもどうぞ。(要予約)
5月 26日	火	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	「大島青松園とハンセン病について」 酒井光雄氏からおはなしを聞きます。
5月 29日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師(小児科)にゆっくり 相談できます。(予約要)

・火～金の13時～16時までは、園内開放しています
ので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みすゞ童話全集④
空のかあさま・下

トン、トン、トンカラリンと
佐保ひめさまは
それでお空を織りました。

青いとばかり。
残ったものは
四つまでつかい、
よ

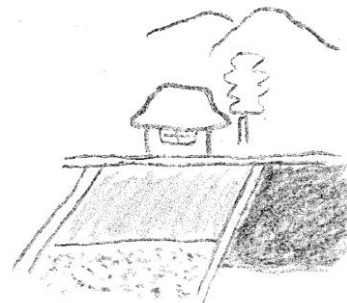
五つ色いと

かすみを白く、
げんげを紅く、
あか

菜種を黄に、
きい

麦をみどりに、
さほひめ
佐保姫さまは、
むかしお機を織りました。

春のおはた
トン、トン、トンカラリンと



今月は、香川みすゞさんの会でゲストとしてお招きし、ご自身の子育てについてお話いただいた福田さんのことをご紹介します。

福田 真紀子さんについて

高松市在住 夫と子ども2人の4人家族



・第1子（公立中学校在籍）

第2子が自閉症とわかり、親として勉強し、知識もでてきたつもりだったがこの子は、小学校入学後、二次障がいとして強迫症状（こだわり）などが出て初めて親も周辺も気づく。知的遅れのない自閉症（アスペルガー）の診断。こだわりや人の気持ちのよみとりや想像は苦手、などの特質はあったが、当時は周囲から理解されず、支援が受けにくかった。人間関係は、知的障がいを含む重度の自閉症よりも大変な面も多々あると、いつも感じている。

・第2子

知的障がいを含む自閉症。1歳半健診で母が呼んでも振り向かないので、リハビリセンターで療育を始め、養護学校の幼稚部から小学校をへて、現在、中学部在籍。

2人の子どもは、現在、医療機関や専門機関を利用しながら親も対応を学び、元気な学生生活を過ごし、また母も養護学校の役員としてPTA活動に参加している。

「その子らしさをいかす子育て」

福田 真紀子

数日前に「その子らしさをいかす子育て」（吉田友子著 中央法規出版）という本を読み、その前に読んだ本が重かったせいもあってなのかもしれませんが、この本を読んだら私はなんだか気分が前向きになり、元気がでました！みなさんの心には響くかどうかは不明ですが、もしかしたら私と同じように元気ややる気がでる人がいるかもしれないと思い、本の中から少しですが抜粋し

て文集に載せてみようかな、と思いました。

私が勝手に心に残った部分だけを抜粋したり略したり、ちょっと言い方を変えたりもしていますが、文意は伝わると思うので、よかったら読んでみてください。



「障がい」か「個性」か

「相談すべきか悩むことの苦しさ」「専門知識はあなたの育児に役立つ」の前置きの後、保護者が子どもの特性についての情報をもつことは、10～11歳になった時の適応を向上させるという調査結果（1993年 ギルバートら）を紹介し、また日本の研究でも今の乳児健診で引っかからず、支援の対象となっていない場合、思春期・青年期に不適応をおこす要因となりうる事が指摘されていることを紹介しています。障がいか個性か・・・例えば不器用（個性？）な子どもに母親が（子どもの能力の障がいに気づいてないから）「なんでちゃんとしなの！」と叱るとします。子どもは、ちゃんと頑張ったのに・・・。こんなふうに努力を否定される対応が続けば、いつか自分を否定したり、努力を放棄する大人になるかもしれません。能力の障がいから目をそらし、障がいをないものとしてふるまう行為にこそ、自分を認められないところに子どもを追い込む危険性があるのです。「障がい」と「個性」という二つの捉え方を二律背反（どちらかであれば、もう一方でない）ものとして捉えること自体をやめましょう。子どもの特性は、どの子のどんな特性も「障がい」であり「個性」です。客観的に評価し、それに合わせた支援や課題を用意するとき、あなたはわが子の特性を「障がい」として捉えています。同時にわが子の行動のほほえましさをいとおしく思い、あるいはそのユニークさに感心するとき、あなたはその特性を生涯続く、その子らしさ「個性」として味わっているのです。「障がい」か「個性」か。その区分はあなたが今、子どもにどんな視点を向けているかを示しているにすぎません。そしてこの二つは、どちらが欠けてもだめなのです。両方の視点をもちあわせて子育てをしていくことが子どもをトータルに支援し、育児を楽しむために必要なのだらうと思います。



「療育のめざすもの」



療育の目標は、子どもが自分に自信と誇りをもって暮らせるおとなになることです。技術を教え込むために自信や誇りを失わせては元も子もありません。療育は、将来のいつかのために今を犠牲にする修行ではありません。自分に自信と誇りを持って暮らせるおとなになるためにいちばん大切なことは、できるだけ多くの安心と自信を子どもにもたせることです。そのためには確かに、技術はないよりもあったほうが有利なので、技術を教えるのです。何が本来の目的で、何がそのための方法なのか、そのことをいつも頭においておかないと「療育をめざして療育的でない暮らしを送る」ことになりかねません。親子ともども、へとへとになってイライラと毎日を送っているとしたら、それは本末転倒です。親も子も暮らしやすくなる工夫、明日につながるような暮らしやすさへの工夫は、実は発達を促す支援になっていることが大半です。逆にいうと、やればやるほど手がかかり、生活が大変になっていくような対応は、あなたの子どもにとっては、療育的でない可能性が高いでしょう。残念ながら、どの子にも絶対あう、というアドバイスは存在しません、もし、家庭で取り入れてみて3ヶ月たっても生活が一向に楽になっていかないなら、どうぞやり方を見直してください。

よりよい親とは、より大きな犠牲を払っている親のことではありません。笑っていないあなたに育てられた子どもが将来、自分に誇りをもったおとなになれるでしょうか。また、療育は、先で笑うために今、歯を食いしばることではないのです。親にとっても子にとっても、です。今を、この一度しかない大切な今を、より楽しく、より便利に、より充実して暮らすためのアプローチのことなのです。

他にも「子どもたちの特性は、弱点とばかり考えずに長所となる」ことや「大切なのは経験の分量ではなく、楽しかった経験を積み重ねることです」というのも勇気づけられました。

(学校文集より抜粋)

